

## 第一回お茶の水フェスティバル開催!



本田学長と土屋文教育学部長

去る五月三十一日(土)、第一回お茶の水フェスティバル(第一部講演会、第二部懇親会)が開催されました。主催は、お茶の水女子大学、附属幼稚園、小学校、中学校、高等学校、お茶の水芸術事業会。このフェスティバルは、本来、芸術事業会第一回総会後の講演会として企画されたものですが、より強くお茶大卒業生や地域の方への芸術事業会の周知を徹底しようという機運が高まり、お茶大出身の大学・附属学校の先生方の総力結集により開催の運びとなりました。当日は、五月の心地よい風が吹く晴天となる予定が、横殴りの雨と風にもかかわらず共通講義棟二〇一号室は大入り満員となり、十四時に第一部講演会が始まりました。「お帰りなさい」。本田和子学長は素敵な笑顔で卒業生が多く来場している会場に語りかけ、「国立大学改革とお茶の水女子大学のゆくえ」について柔かい語り口で話が進みます。平成十六年四月から従来の国立大学ではなく、国立大学法人お茶の水女子大学という一つの法人となり、教育研究と経営の責任をもって大学運営に当たることや、一七七年の伝統と蓄積を踏まえて女子大学として存続していくことで卒業生をはじめ学びたい全ての女性を支援することなどを説明しました。そして、お茶の水芸術事業会を設立し会員制にしたのは、今後の不確実な大学の財源基盤を少しでも支援するために、一過性の寄付ではなく、経年的なご協力を皆様に期待したいからである、と結びました。

続いて、土屋賢二文教育学部長の講演です。司会の篠塚英子先生の挨拶に「顎がはずれないようにご注意ください」とありました。言葉通り、お腹を抱えている人や涙を流している人など会場は爆笑の渦に巻き込まれました。タイトルは「お茶の水女子大学はどんな人間を生み出してきたか」被害者の観点から。お茶大出身者の長所を十二個挙げて、特徴を説明し、「こういう特徴のあるお茶大出身者がいる限り日本は安心だと思おう」と締めくくりました。これらのお茶の水フックレット2「国立大学改革とお茶の水女子大学のゆくえ」(定価五〇〇円、送料別)に収められているので、是非そちらで内容を確認しながら笑ってください。本田学長の参議院での質疑応答も掲載されています。



お茶管OG有志の演奏

第二部は十六時十五分よりスタート。ガーデンパーティーの予定が雨のためマルシェ(学生食堂)での開催となりました。司会菅聡子先生で、乾杯の挨拶は本田学長。昔話に花が咲いているグループや、恩師との久しぶりの再会を喜んでいる人たちなど、みな学生の頃の顔に戻って(?)いました。子供の姿もあり和やかで楽しい懇親会は、お茶の水管弦楽団OG有志の演奏も会に華を添え、大盛会となりました。お茶の水フェスティバルを開催するに当たって、平野由紀子先生を委員長とするお茶大出身教官によるお茶の水フェスティバル実行委員会が結成され、教育研究活動で忙しい先生方が、時間をやり繰りしてフェスティバルの準備を行いました。卒業生や知人にフェスティバルのことを宣伝したり、当日の準備のために会議を重ねたりと大変な努力を費やしました。フェスティバルが盛会のうち

ちに終了できたのも、実行委員会の先生方と大勢のボランティアのご協力のおかげです。お茶の水フェスティバルが附属学校、学生、卒業生、教職員、地域の方を巻き込んで、知的好奇心を満たすと共に、色々なネットワーキング創りの一翼を担うことができればと願っています。次のお茶の水フェスティバルが今から楽しみですよ!

(特定非営利活動法人お茶の水芸術事業会 岩城 聡美)

フェスティバルの様子は [www.npo-ochanomizu.org](http://www.npo-ochanomizu.org) を見てください!

参加者の感想

- ・学長のユーモアと元気にあふれたお話ぶりに感銘を受けた。しかも内容のよく伝わる話だった。
  - ・お話が大変おもしろく、雨の中タクシーでかけた甲斐があった。
  - ・大学のセミナーでこんなに面白く、不真面目なものもめずらしい。
  - ・お茶大の新しい活動を体感できた。文書を見ているだけではわからない皆さんの発見があった。
  - ・お茶大の今後の方向が明確に説明され、とても心強い思いがした。卒業後関わりが少なくなりつつあった母校が身近なものに感じられた。
  - ・急な企画でもこれだけの講演者をそろえられるところに、お茶大の潜在力を感じて安心した。腐っても鯛!?
  - ・お茶の水女子大学の伝統と心意気に触れることができました。
  - ・保育があつてとてもよかつた。今後もぜひ保育つきにしてほしい。
- 保育は、附属幼稚園、いずみ保育所の協力により行いました。

|        | 参加者   |
|--------|-------|
| 第1部講演会 | 約350名 |
| 第2部懇親会 | 約240名 |
| ボランティア | 83名   |